

# 履歴書

2012 年 07 月 15 日現在



ふりがな		いしの まよこ	
氏 名			
<b>石野 紗也子</b>			
出身地	年齢	※	
兵庫県神戸市	(満 28 歳)	男 ・ 女	
参加した NICE ボランティア	分野		
国際ワークキャンプ	教育、建築		
場所 (国・市町村まで記入)	① フランス・Najac ② トーゴ・Esse-zogbedzi ③ フランス・Prureaux		満足度 ① 100% ② 10% ③ 90%
受け入れ団体	① フランス CONCORDIA ② トーゴ FAGAD ③ フランス Solidarites Jeunesses		活動のやりがい度 ① 100% ② 5% ③ 80%

こんなボランティアでした
① 山岳地に所在する村の小学校への通学路である山道を、安全に通学できるように整備する。
② 農村の中学校に図書館を建設する。
③ 現地住民から借り受けた城館に滞在しながら、内外の施設を整備する。

年齢	経歴
19 歳	神戸大学国際文化学部コミュニケーション学科 入学
21 歳	国際ワークキャンプ(①フランス)参加
22 歳	フランスに留学
24 歳	ソフトウェア開発会社へ入社
28 歳	退職
	ボランティア活動(宮城県)に参加
	国際ワークキャンプ(②トーゴ、③フランス)参加
	神戸大学大学院国際協力研究科 入学
趣味・特技	旅行、音楽鑑賞、いつでもどこでも眠れる
座右の銘	You must be the change you want to see in the world. Gandhi
参加までの旅行経験・ボランティア経験	
特になし	

記入上の注意 1: 鉛筆以外の黒または青の筆記具で記入。2: 数字はアラビア数字で、文字はくずさず正確に書く。

3: ※印のところは、該当するものを○で囲む。

## 志望動機

- ① 大学生活も落ち着き、海外旅行に行きたいと思った。大学の友人から NICE の説明会が開催されることを聞いて興味を持ち参加したところ、国際ワークキャンプは普通の旅行より低予算で、しかも深い経験ができそうだと感じた。フランスを選んだのは、第2外国語としてフランス語を勉強していたから。
- ② 大学院でアフリカの仏語を使用する国をフィールドに研究したく、入学前に行っておきたかった。当初モロッコを考えていたが、適当なプログラムがなく、他に条件に当てはまったのがトーゴだった。
- ③ トーゴの途中にフランスを経由するため、時間もあるのをついでに申し込んだ。

## 行くまでに心配だったこと（どう乗り越えたか）

- ① 初海外でしかも一人旅だったので、漠然とした不安があった。出発前の情報収集を念入りに行った。
- ② 初アフリカだったので、やはり漠然とした不安があった。トーゴについて日本へ入手できる情報は非常に限られていたため、事前に渡航経験者から体験談を聞き、現地の知り合いも紹介してもらった。
- ③ 特になし

## 家族・友人・学校・職場の反応（私はこうやって説得した!）

アフリカに行く際に、両親が当初反対した。現地できちんとした団体が受け入れ先になっていることなどを説明し、最終的には納得してくれた。（ただし、実際はしっかり運営されていなかった。）

母の判断で、別居の祖母にはアフリカに行くことは話さず、フランスにしか行かないことにしていた。

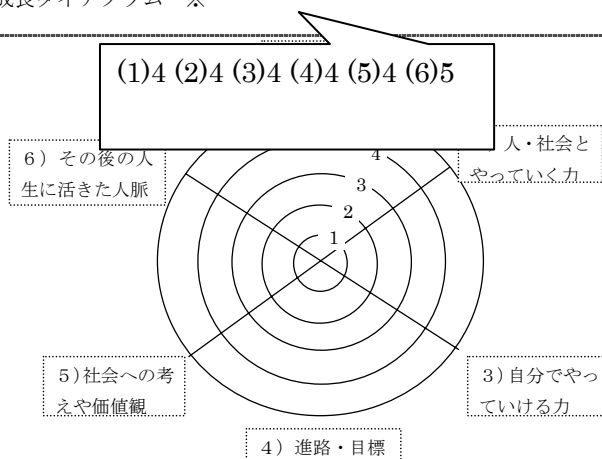
## ワークキャンプとその後の人生（進路決定、参加経験が役立っていること等）

最初のフランスでのワークキャンプで最高の思い出が作れたことが、その後もフランスに関わり続けるきっかけになった。また、英語をコミュニケーションツールとして使ったのはこのときが初めてだった。かなり苦戦したものの、それでもなんとか交流はできるものだとわかり、非常に意義のある体験ができた。

トーゴでは、ワークキャンプ自体はまったく機能しておらず非常に残念だったが、現地で別の NGO で活動する素晴らしい友人ができたことは、人生の財産になった。彼らの活動には今後も協力していきたい。また、この渡航をきっかけに大使館と関係ができて、帰国後も大使館の活動を手伝わせてもらっている。

最後のフランスでのワークキャンプは、休暇的な位置づけで参加した。仕事や進路のことはあまり考えず、フランスの田舎での時間をゆっくり楽しみ、退職と入学の間の期間に気持ちの切り替えができた。

## 成長ダイアグラム ※



これから参加を考えている人へ、熱いメッセージを♪

私がワークキャンプやボランティアに参加するのが好きなのは、いつもそこで素敵な人たちと出会えるからです。参加者はやはり大学生が多いですが、社会人になって参加してみても、やっぱり素敵な仲間に出会え、多くのことを学びました。そして、社会人ももっと参加できるような日本になればいいなと思いました。タイミングは人それぞれなので、チャンスがあるなら、あなたにはきっと今がその時です。ぜひ飛び込んでみてください！